

府中かんきょう 市民の会

▼▼ 主な内容 ▼▼
 府中の環境基本計画をめぐって…… p2
 日野市の向島用水を見る…… p4
 秋の風景、彼岸花を観る会…… p5
 多摩川とのかかわりを考える…… p7

2001年秋号/季刊

11月 1日発行

発行人：横山永望
 連絡先：府中市浅間町4-18-12
 TEL & FAX：042-362-2684

大国魂神社の景観めぐり都に要望

都営住宅の建て替えは慎重に

府中駅周辺は開発が進み、人々の流れは途絶えることはありません。しかしケヤキ並木のおかげでなんとなく他では味わえない安らぎを覚えます。そして大国魂神社に一步踏み込むと、さらに大きな安らぎが得られます。

このケヤキ並木と大国魂神社は、東京都の「景観上重要な歴史的建造物」として今年4月に指定されたのでした。大切に守りたいものです。

東京都は「東京都景観条例」に基づき、歴史的景観保全のための指針を策定し、ニコライ堂、日銀本店本館、六義園など、都内11個所の歴史的建造物を指定したのです。大国魂神社とケヤキ並木もこのなかに含まれま

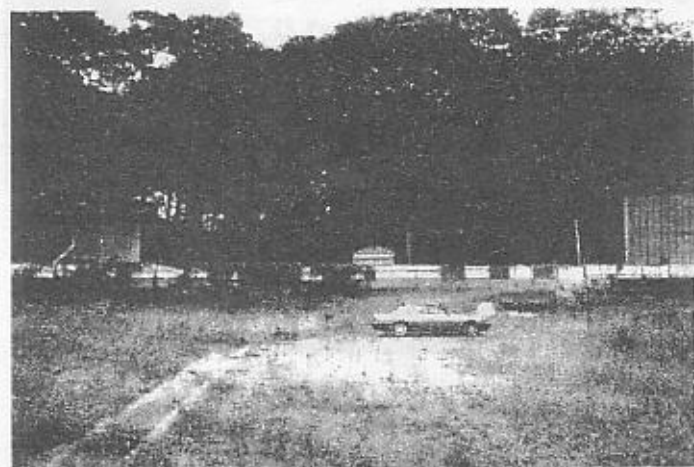
部住宅建設事務所にたいし、同神社周辺の景観が住宅建設によって損なわれることのないように配慮をしてほしい。そのために必要なシュミレーションの実施と、その結果の公表とともに、建物の色彩、材料にも配慮することを求めました。また、住宅建設と合わせて造成される公園についても、府中市が計画している府中崖線の保護・保全計画とマッチするような公園の造成や府中崖線にふさわしい樹木を植えて欲しいと求めました。

これに対し、同事務所の南部副所長らは、当会の要望についてほぼ同意し、必要な対策をとることを約束しています。また、府中市に対しても、当会の要望についての協力を求めたところ、善処を約束してくれています。

この問題は、東京都が都内の景観を維持するためにスタートさせた事業です。また指定の11個所の景観上歴史的な重要建造物のなかで行われる初の開発事業であり、また東京都自らが開発行為者となるもので、東京都の歴史的景観に配慮するテストケースとしても、全都的注目が集まりそうです。(館浩道)

●高崎利夫会員談

本当はこの場所に、府中の歴史を展示する歴史館を主体にした公園にして、国府跡にふさわしい整備を望んでいるのです。しかし、都営住宅計画がここまで進んでしまっただけで、せめて周辺の景観との調和を切に望むばかりです。



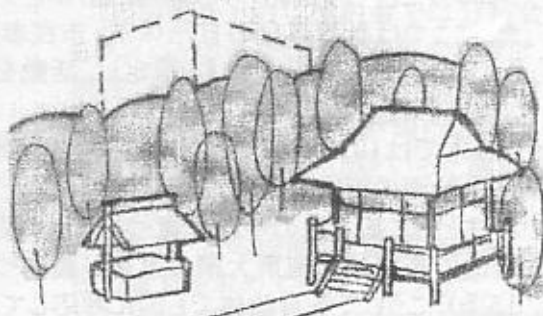
大国魂神社境内東側に計画中の都営住宅用地

す。

これによって指定建造物の周辺100m以内の地区で開発行為を行うものは、建物の規模、配置や形態、意匠、素材・色彩、外構・植栽などにわたって景観上の配慮を行わなければならないこととなったのです。

ところで現在、同神社の東隣では都営住宅の建て替え計画が進んでいます。ここには以前から平屋建ての都営住宅があったのですが、老朽化のため取り壊され、跡地の遺跡調査を経て、現在、4階建ての都営住宅として計画が進行しているものです。この住宅建設計画も景観上の配慮を求められる範囲に該当します。

「府中かんきょう市民の会」は、去る9月5日、東京都南



神社境内からこのように見ると景観は台なしだ
 (都「歴史的景観保全の指針」より)

市民参画型の環境基本計画

●積極的な役割はたしている会員メンバー 館浩道

市民公募でスタートした府中市の環境基本計画の素案策定をすすめている「素案検討会」もすでに1年3カ月が経過しました。ここでの議論はどこまですすんでいるのか。この検討会のなかで府中かんきょう市民の会のメンバーは積極的な役割を果たしていると思います。議論の内容と今後の見通しについて忌憚のないご意見をお願いします。



●"市民の手で"が環境審議会の結論だった

竹内 章

私は審議会メンバーだが、審議会では基本計画の策定のありかたについて時間をかけて議論した。市側が作成した環境基本計画案を審議会が承認したり、コンサルタントに依頼するなど、いろいろな選択肢があるが、出来映えは悪くとも市民が自ら作らねばいけないというのが結論だった。

公募ではたして何人集まるかと危惧した。実際、1度目は十分集まらず気をもんだが、2度目を締め切った段階で50人となり、市の担当課長も感動していた。



●一歩進んだスタイルにさらに市民との接点を

進藤礼治郎

市と市民の関係が一歩すすんだスタイルだが、今後、シンポジウムの開催など、さらに市民との接点を広げることも課題だ。市民と行政の協働の一つとして、これからも継承発展させたい。

竹内 素案検討会の議論が1年以上経過するなかで行政内部からも「いつ出来るの」との声も出始めている。まとめあげる力量が試されているのだろう。



ルーツはリオ会議…環境基本計画

1992年ブラジル・リオの『地球サミット』では人類社会の持続可能性が議論され、取り組むべき課題として「アジェンダ21」(21世紀の人類の課題)がとりまとめられた。ここでは世界各国の自治体が、市民参画のもとに『ローカル・アジェンダ21』を策定し、活動をしていくことも求められた。

日本では1993年11月に環境基本法が制定され、環境基本計画の策定が環境影響評価制度などとならぶ重要な柱として基本法の中に位置づけられ、環境保全の総合的で長期的な施策大綱の策定が義務づけられた(第15条)。こうして各自治体でも国に呼応して、環境基本条例の制定、環境基本計画の策定をはじめ、ローカルアジェンダ計画が取り組まれている。



●府中の環境問題が盛り込まれているかチェックを

羽尻元彦

今は4つの分科会から原案がそれぞれ出来上がり、素案として一本化する段階だが、市民の立場からみて府中の環境にかかわる諸問題が十分盛り込まれているかどうか少し心配だ。このチェックもやる必要がある。



府中市環境基本計画素案検討会の
運営委員会 (10月16日)

が反映していないように思える。また、環境基本計画の実現をはかる仕組みという枠組みも問題で、市民の側と行政側との連携や協働といったものをどうつくりあげるのかという課題がある。



進藤 議論の仕方のフレームが当初から明確でなかったという状況のなかで議論がすすんだので混乱する一面も確かにあったと思う。計画の実現にむけての仕組み作りが今後特に大切だと思う。

●生活者の感覚が反映していない

大草郁子 一年間という時間をかけたわりには内容に不満を持っている。たとえばゴミ問題では生活者としての市民感覚

素案作成いよいよ正念場

●さらにレベルアップが必要

平沢一彦 一年間議論してみて検討会メンバーだけでは十分な内容を盛り込む点で力量も十分でないし、この点レベルアップも必要だ。現在の分科会出席率は50パーセント程度でなんとか成立している状況も一方にはある。会社員のメンバーが夜の早い時間帯に会議に駆けつけるのはたいへんなことだろうと思うが、応募したからにはもう少し自覚をもつことも必要だと思う。

しかし、個々人の自覚だけに期待してもうまく行かないのが現実だ。まったくの手弁当的な参加ではこうしたことが起きる。ある程度の手当もして責任を持たせるようにすることも必要だし、現実には資料作成や交通費といった個人負担も馬鹿にならない。

●奮闘していい結果をだそう

横山永望 素案検討会を設けることは市環境審議会で決めたこと。こうした共同作業は今後いろんな意味でモデルになるし、またそうなるように努力も必要だ。とにかく、残された時間はそう多くはない。いろんな問題を抱えながらすすむのだと思うが、市民参画の初めての試みとして、どうしても成功させなければならぬ。おおいに奮闘して、いい結果をお互いに出そうではないか。



府中市では1999年制定の府中市環境基本条例第7条で環境基本計画策定を位置づけ、府中市環境審議会(会長:小倉紀雄農工大教授)を設置して計画策定を審議することとした。審議会は市民公募による計画素案作成方式を決め、昨年8月に50人の検討メンバーで素案検討会がスタートした。検討会は、①水と緑のまちづくり、②快適なまちづくり、③公害のないまちづくり、④資源循環のまちづくりの4分科会に分かれてそれぞれ計画素案にもりこむ内容について議論を深めた。各分科会はおおむね10数回開催され、それぞれ原案を作成した。

府中市では来年6月メドに

環境基本計画素案を策定中

この原案を土台に検討会では分科会中心メンバーからなる運営委員会を設け、現在、検討会としての素案作成にむけ、原案の調整やチェック、計画内容実現への道筋をどう展望するかといった議論をすすめている。

今後、一定の段階で、素案を公表し市民の意見を求めて補強したうえで、来年6月をメドに環境審議会にたいし素案を提出、環境審議会は素案をさらに検討して市側に答申するという見通し。

日野 向島用水を見学

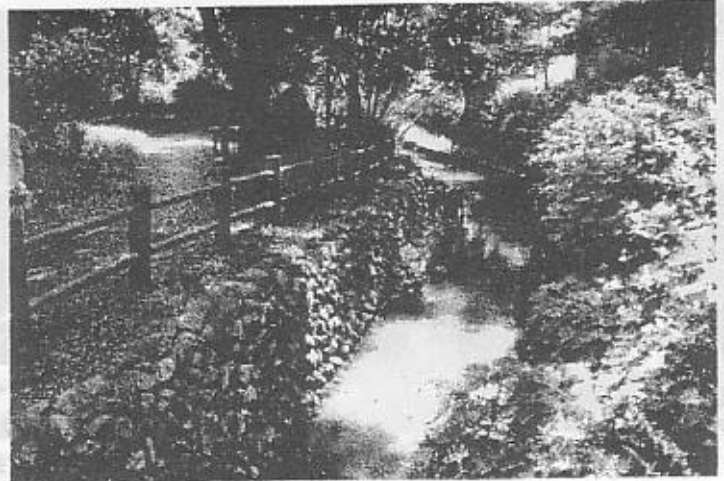
「府中かんきょう市民の会」は去る8月25日に日野市の向島用水を見学しました。土曜日にもかかわらず、日野市の担当職員から熱心な説明を受けることができ、用水誕生のいきさつから、管理の苦勞まで、さまざまなお話を伺うことができました。当日は、呼びかけられた府中環境基本計画素案策定検討会の「水と緑のまちづくり分科会」からも多くの方が参加されました。メンバーの一人である小西さつきさんから感想文が届きました。

小西さつき

「隣の芝生」ではありませんが、市民と行政が協力して、まちづくりに取り組んでおられるのを、正直いって、うらやましく思いました。市民が積極的に意見を出して、それに対し行政ができる限りの努力をする、という姿勢はどちらも立派です。本来は、ごく当たり前のことなのかもしれませんが、簡単なことではありません。府中も見習わなければと感じました。見学して印象に残ったことをいくつかあげてみます。

タヌキの雑木林は素敵

○向島用水のはじまりがタヌキの雑木林だなんて、素敵だ。拍手したい。○遊歩道の本製チップがふかふかして心地よかった。○「安全確保」と「自然な水辺」は相反するものだが、いろいろな工夫が見られた。○用水の管理は難しいものかもしれないが、府



木もれ陽のなかを流れる向島用水

中でもやればできるのではないかと思った。○道路端の小さな用水も、町の景観をつくっていて素敵だと思った。変に柵などない方が良いと思うが、市民からは安全管理上の苦情はないのだろうか。

意識の高い市職員

○市職員がボランティアで米づくりをされているのはたのしい。意識の高い職員が育っていて素晴らしい。○冒険遊び場の裾野がもっと広がると良い。○市民の提案でできたワンド。生き物の種類が増えたと聞いて、市民のパワーと自然のもとも持っている力は凄いと思った。○程久保川の水質が徐々に良くなっているとのこと。素敵に川になる日が近いことを祈る。○案内してくださった職員の方が、とても良く勉強されていて、感心した。

府中かんきょう市民の会主催による第2回目のバスツアーが平成13年9月21日(金)に開催されました。

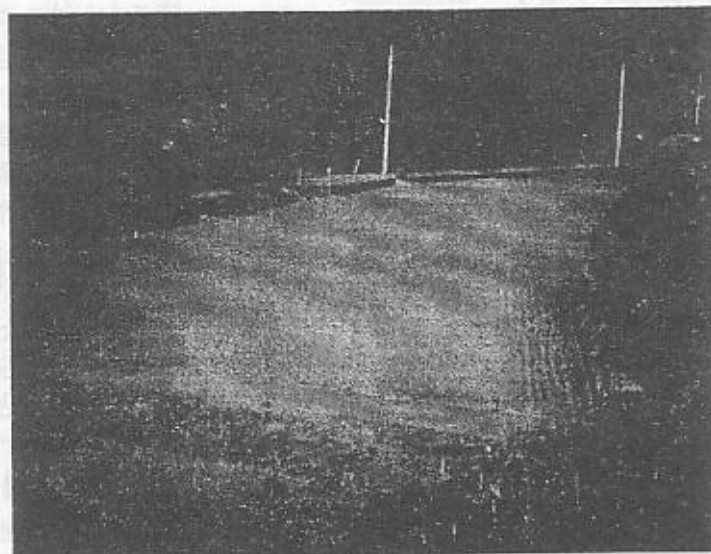
目的地は横浜市青葉区寺家町にある『寺家ふるさと村』です。当日は生憎の雨天になってしまいましたが、会員、一般公募市民、現地集合を組みを合わせ、参加者は50名となりました。

バスは定刻に大國魂神社前を出発して予定通り現地に到着し、神奈川県自然観察指導員の杉本氏より「寺家ふるさと村」について説明を受けました。

この村は横浜市の北端にあり、鶴見川の源流部に位置しています。

面積は86.1haと小さな集落ですが、今も昔と変わらず、水田と山林が織りなす美しい田園風景に恵まれた地域であり、横浜市の緑の7大拠点のひとつになっ

寺家ふるさと村を訪ねて



谷戸の奥まで広がるふるさと村風景

ております。

人口は341人(87戸)で、うち農家戸数は36戸です。この戸数は江戸時代元禄の頃から殆ど変わっていないということです。また、この村の特徴として、陶芸、竹細工、味噌・醤油造りなどの家伝の技術を継承する人々がいるほか、茶道具の炭では全国の70%を出荷する地場産業も盛んなところでもあります。

私たちは早速、自然監察員の案内で炭焼きの現場を見学、抹茶とお菓子の接待を受け、お土産に焼き上がったばかりの炭をいただき、参加者一同大喜びでした。(竹内章)



秋の風景、ヒガンバナを観る会

身近な自然や水辺の景観を考える

今年のヒガンバナを観る会は9月24日でした。彼岸の日に集中して咲く花が、今年は酷暑(温暖化の影響?)のせいか1週間程早く咲いたようです。都市化と農業の機械化で畦道や用水路がコンクリート化され、府中でもなかなか出会えなくなりました。四谷・日新地区には昔ながらの畦道や用水路があり、水田集落、屋敷林、寺社林も残っています。小中学校の週休5日制実施に伴い、来年から「総合的学習時間」の授業が導入され、自然観察や水田体験等の受皿づくりに、文部科学省は“町の子に魚やザリガニ再び”と「用水路」を開放して環境教育の場にと呼びかけています。高度成長期の用水路はドブ川と化し、フェンスが張られ、子どもを水辺から隔離した時代でしたが、メダカや小魚のいる“春の小川”を再現して次世代に引き継ぐ、大人の責任が問われる時代に様変わりしたのです。

この地区は3年前、府中四谷橋の開通で“府中の原風景といえる水田地帯”が分断され、沿道の宅地化で水田、樹林地は急速に減少しています。四谷4丁目にわずかに残る雑木林は相続税を払えず、やむなく国に物納したといます。隣地は畑で用水路が通り、市が買い上げて“樹林と水辺の自然観察地”にでもできないかという参加の声しきりでした。同じ4丁目地内(四谷保育所東)の田んぼも物納されたらしく国有財産処分(関東財務局)の競売掲示板を目にしました。隣地が四谷南通緑地なので、ここを市の公的手立て(国から譲渡、借用)により、道路の緩衝緑地帯として活用できたら…



ここにも物納土地が競売されようとしている。(四谷4丁目付近で)

などと語り合いました。

四谷文化センターの懇談では行政当局への申し入れとともに、農地を守っておられる農家の方々との意見交換をと、まちづくりにかける熱意ある意見交換が続きました。参加は27名。島村勇二氏案内(府中市自然調査団・聖徳大教授、昨年「府中用水に関する調査研究」を発刊)。徒歩や自転車での散策をお勧めします。府中のすばらしさを再発見できます。

(進藤礼治郎)



相続税負担で物納された農地。緑地として保全の道はないのか

府中市社会福祉協議会のボランテア活動に参加

月二回、社会福祉協議会の配食ボランテアをしている大草さん。

午後一時半から四時まで、二十人分のお弁当を作って配達するのですが、十二人のボランテアがルミエール府中や中

央文化センターの調理室に集まり作業します。メニューづくりと買物は当番制ですが、栄養バランスと季節感への配慮、そして予算に苦慮するそうです。しかし残念なこ



<会員紹介>
大草郁子さん

とに環境問題を考えた調理方法には程遠いそうです。大草さんは「エコライフはそんなに難しいものでしょうか」と、いつか環境配慮型の配食活動ができるよう望んでいます。

そして夏は高校野球です。府中市営球場での地区予選大会には、売店でビール販売のボランテアもしています。

これが福祉協議会の活動資金になります。今年の優勝校西東京代表の日大三高は府中市営球場での地区予選から勝ち残っていたそうです。

TAMAとことん討論会

多摩のゴミ問題の議論に参加しました

大草 郁子

第9回TAMAとことん討論会に参加しました。

9月22～23日、TAMAとことん討論会実行委員会(東京・多摩リサイクル市民連 邦と東京市町村自治調査会)主催、日野市の共催による、とことん討論会が日野市民会館と市役所で開催されました。

「2001くらしのフェスタ日野」や「とことんフェスタ」が同時開催だったので、にぎやかなイベントとなりました。

初日は12:30、全体会開会・あいさつ。12:45「ごみ改革一年を振り返って」と題して、馬場日野市長と米村多摩大学講師の対談。

市長自ら陣頭指揮

日野市は昨年10月1日から戸別収集と有料指定袋制に切り替えるとともに、市ごみ減量実施対策本部を発足させ、市長自ら陣頭指揮にあたっています。

これは朝日新聞(平成10年1月)に「日野市のごみリサイクル率が多摩地区でワーストワン」と掲載されたのがキッカケのようです。マスコミの力は大きいです。実施3カ月前には市長が駅頭演説をして市民に呼び掛けまで行ったそうです。

13:45、「環境共生住宅エコヴィレッジ日野」についてOHPを使用して住人代表からの発表がありました。「きなのいえ」の別名を持ち太陽光発電装置や屋上菜園、外断熱工法を採用した環境理想境のようでした。

14:15、「まちづくりと市民の役割」と題して山岡法政大学教授の講演。つくりへの着目…まちづくり、住まいづくり、ものづくり、組織づくり等つくりに通ずるのは「心あわせのプロセス」と強調されました。

リサイクルの限界はエネルギー化で

15:15、7つに別れての分科会。「第二の資源リサイクルここが問題PART 3」に出ました。故繊維を中心に議論がすすみました。「受け入れキャパ」が超過し、マテリアルリサイクルに限界があり、エネルギーリサイクルも考えはじめようというのが結論です。

23日のパネルディスカッションは「こ

れからの循環型社会をかんがえる」がテーマで、特に目新しいものはありません。午後は都市農業の維持を模索しているという農家で手料理を頂き、向島用水路と潤徳小学校のビオトープも見学し、有意義な時間を過ごすことが出来ました。来年は多摩市が共催となりました。

●TAMAとことん討論の歩み

第1回は1992年に「365万人リサイクル都市形成」をテーマに開催(稲城市)し「東京多摩リサイクル市民連邦」が発足。第2回(1994年、八王子市)は多摩リサイクル市民連邦のありかたを巡り議論。第3回(1995年、調布市)は「リサイクルでへらそう! 多摩のごみ」がテーマ。第4回(1996年、多摩市)は「これでいいの? あなたのごみ 多摩のごみ」。第5回(1997年、町田市)は「市民がつくる循環社会をめざして」。第6回(1998年、武蔵村山市)は「ごみゼロへのカウントダウン」。第7回(1999年、府中市)は「みなおそう! ライフスタイル 府中発ごみゼロ宣言」。第8回(2000年、八王子市)は「耕そう! 循環型コミュニティー TAMA発環境の世紀に向けて」。

日野

ごみ・リサイクル
ごみ改革

MINO SUN

前ページへ戻る

ホームへ戻る

1.ごみの出し方

◆指定袋を購入し、排出

市指定収集袋の価格

一般家庭用

(可燃不燃とも)

小袋(10リットル)	200円(10枚1組)
中袋(20リットル)	400円(10枚1組)
大袋(40リットル)	800円(10枚1組)

事業系

(可燃不燃とも)

特大袋(45リットル)	3000円(10枚1組)
-------------	-------	--------------

※料金は内税払い

市指定袋を購入し排出を

市指定袋を購入し、排出を 可燃ごみ・不燃ごみについては必ず市指定の収集袋を購入し、その中に入れて出してください。可燃用は緑の半透明、不燃用はオレンジの半透明です。他の袋で出されている場合は収集しません。市指定収集袋の大きさ及び価格は左表のとおりです。指定袋は、市指定ごみ袋取扱店で販売します。また、生活保護などを受給している世帯には減免措置があります。



日野市は、ゴミ減量をめざし有料袋での戸別収集に踏み切った。すでに1年間の実績では、改革以前の年間比で可燃ゴミ48%減、不燃ゴミ62%減、資源リサイクルは2.9倍に増加する成果を上げている。(「ごみの出し方」は日野市のホームページより)

ふるさと多摩川に憩いの庭を

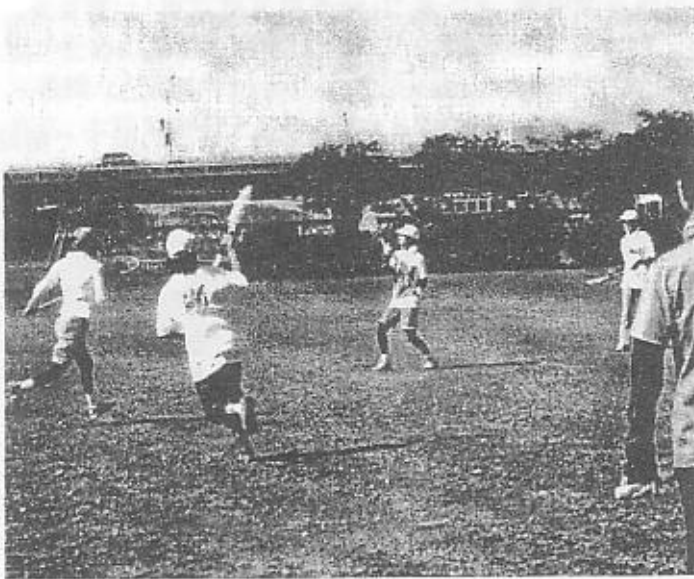
鈴木美生

母なる川、多摩川

千三百数十年前、奈良に都があった時代に武蔵国が存在し、府中には国府が置かれ国司が政事を行った。多摩川に沿った「はげ」には集落が連なり、先人たちは水田稲作や漁業で暮らしを支えた。大昔から変わらぬ人と川の関係だ。

現代人は、水道用水、農工業用水、下水道、緑地、河川敷の利用など、さまざまな方法でこの川を利用している。

この多摩川の恵みにたいし、住民がどれだけ多摩川の



維持と環境保全のために貢献しているか。このことを問われると声が詰まる。過日の豪雨で運ばれた流木の堆積はまだ手つかずである。

鳥海山山麓の住民が、鳥海の禿げ山にブナを植林するという活動にとりくんだ。5年間で1万本の植林をやりとげたそうだが、これには漁民も魚つき林に魚を呼びたいと願って参加した。こうした人々の姿勢に学びたいものである。

堤防と河川敷に植林を

多摩川にはサイクリングロードやサッカー場など、さまざまな施設がある。この施設にその目的をそこなわない範囲で樹木を植えたいものである。木陰はスポーツ観戦や語り、そして景観としてもすばらしい役割をはたすはずだ。

四谷一丁目の南あたりは草も木も生えないところで、白い小石が堆積している。こどもたちの遊び場にふさわしいではないか。造形広場にしたらいいと思う。

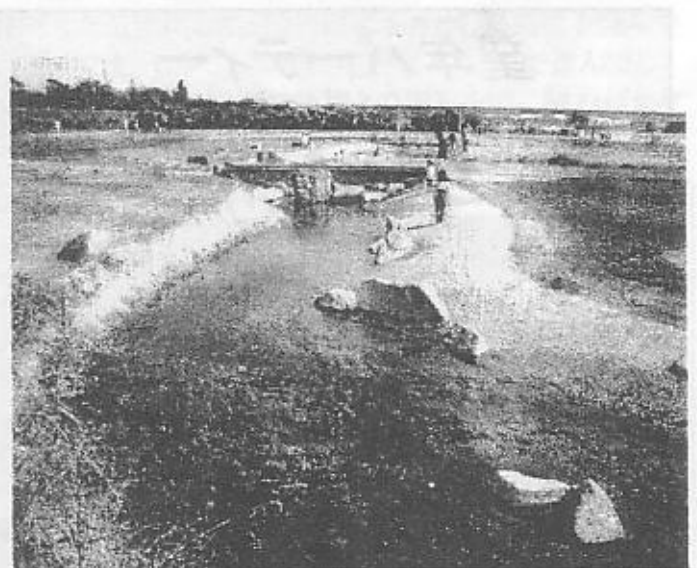
南町の第1野球場の南側は、多摩川の水が堤防近くまで迫っている。休日にはボート・カヌーといった川と親しむ人々であふれている。こうした場所にトイレや水飲み場を置いてはどうか。

小柳地区には、よく手入れされた緑地や花壇、ベンチ、散歩道があつてとても快適だ。散歩をしている人から「府中市で作ったようだ」と聞かされた。行政もやるものだ。ここに水路を設けてアヤメ、スイレン、ハスなどの水性植物を植えれば、河川敷のガーデンとして、もっとよくなるのに…。

川を愛する運動に参加を

河川敷の運動場などの施設を利用する市民は、その管理、修理、美化にもっと責任をもちたい。流域住民は川の恵みと危険を共有しているのだから。多摩川にかかわるさまざまな同好グループとともに、ごく普通の住民が川を愛する運動に参加することはとても大切なことだ。

ラクロスに興じる若い女性たち
関戸橋付近の府中市多摩川緑地



小柳地区の
多摩川親水公園

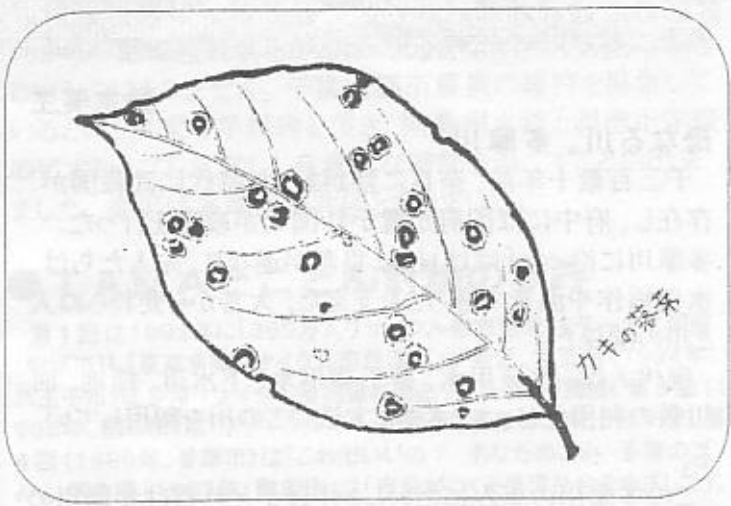
雑学 コーナー

紅葉と落葉のメカニズム

10月半ば、檜原村の小河内峠付近をハイキングしました。紅葉の時期にはちょっと早く、山はまだほとんど緑でしたが、なかには気が早い植物もあって赤や黄色の落ち葉もチラホラ山道に落ちていました。

そんな中からきれいな落ち葉を20枚くらい拾ってきて新聞紙の上に広げてみたら、見事な自然の錦絵ができてきました。

よく見ると、一番鮮やかな橙赤色のカキの葉には、赤い地色の中にポツポツと褐色の点があつて、その回りが緑色で不思議な模様をつくっています。ヨウシュヤマゴボウの葉は赤紫色で葉脈の部分が沈んだ緑色のすじとなつて残っています。イロハモミジは葉の表側がまだエンジ色で、裏側は緑色です。ダンコウバイの葉は鮮やかな黄色です。こうやって観察すると、本来の紅葉の色に変わる前に幾つもの段階があることや、落ち葉の一枚一枚にそれぞれ違った表情があることを見つけ、あらためて自然の奥深さを感じました。



落葉のしくみ

秋になって地温が下がってくると、根が吸い上げる水の量は急激に減ってきて、そのままでは樹木が衰弱してしまいます。それを防ぐために落葉樹は葉の付け根に離層とよばれる特殊な細胞ができて、葉っぱを落として、葉から蒸散する量を減らしているのです。

黄葉と紅葉のしくみ

イチヨウ・イタヤカエデなどの黄葉は、気温の低下で葉緑素が分解し、もともと葉の中にあつた黄色い色素カロチノイドが代わつて葉の表面に現れてくるため葉が黄色に見えるようになります。

イロハモミジ・ニシキギなどの紅葉は、葉の中の葉緑素が分解され、新たにアントシアンという赤い色素ができることによるために起きます。アントシアンは葉の根元に離層ができ、移動をさまたげられた糖分からできるといわれています。(野口道夫)

望年パーティー

café **Slow** で開催

12月7日(金) 18時より

府中市栄町1-20-17 TEL042-314-2833
府中駅発国分寺行き京王バス「京王ストア栄町店前」

今年オープンしたちょっと風変わりなお店で開く恒例の来年を展望する集いです。府中名産・名物・文化作品など物々交換会をします。楽しい集いにしましょう。

- 会費3500円程度
 - 申し込みは勝手
- (TEL363-9050)まで



府中市内の環境問題と取り組んでいます

会員
募集

府中かんきょう
市民の会

- 市内各所のウォッチングで環境チェック
- 「レンゲまつり」など環境復元実践活動も
- 先進の取り組みを見学／講座開催など随時
- 市政への提案活動…市環境基本計画など

例会: 毎月第2水曜、18時から「グリーンプラザ」6Fで
会費: 年1500円／代表: 横山永望
連絡先: 府中市浅間町4-18-12
TEL&FAX 042-362-2684



環境保全率100%再生紙を使用しています